



令和5年度 川越市立高階北小学校 学校だより 3月号 令和6年3月4日(月)



【めざす学校像】「自己決定し共に生きる力を育む学校」

- ・たすけ合う子
- ・かんがえる子
- ・きたえる子



おおぞら



学校・家庭・地域で共に子供を育てる

校長 堀口 雪子

あちこちで咲き出した梅の香りに何だかほっとさせられます。暖かい日も徐々に増え、肌で春を感じる季節となりました。

さて、早いもので今年度も最後の月となりました。各学級では、「もうすぐ〇年生」の授業を通して、この1年でできるようになったことやつけた力を確認し、次の学年のなりたい自分において「今頑張ること」を一人一人が決めました。学年の最後の日まで、自分で考えたためあてに向かって努力し続ける子供たちです。

本校では、この1年「自己決定し、共に生きる力を育む」において様々な教育活動を行ってきました。そのなかで、大切にしたもののが「共に」です。私たちは決して一人では生きていけません。周りの人と助け合い、励まし合いながら生活しています。今年度は学校応援団の活動が開始され、多くの地域・保護者の方にご協力いただきました。

そこで、2月末に「ありがとう集会」を行い、お世話になった方々へ感謝の気持ちを届ける場を持ちました。たくさんの応援団の中から、「読み聞かせ」「環境花植えボランティア」「登下校見守り」の代表の方に出席いただきました。全校児童が集まり、体育館で感謝の手紙を読み、ボランティアの方々のお話をいただきました。「本の楽しさを教えていただきました。」「たくさんの花と一緒に花壇に植えることができました。上手な植え方も教えてもらいました。」「安全に登下校することができました。あいさつも上手にできるようになりました。」と子供たちが感謝の気持ちを伝えました。応援団の方からも「一緒に活動したり、あいさつを交わしたりして元気がもらえます。」「これからも頑張ってください。」と言葉をいただきました。

先日は、**学校運営協議会作成の「TAKAKITA ウォーキングふるさとマップ」**を全児童に配布しました。早速出かけた子供たちの中に、地域の方とお話をしながらポイントのクイズに挑戦した子がいました。答えのヒントを出していただいたり、道の歩き方のアドバイスをしてもらったり、地域の方とふれあいながら取り組んでいました。

また、育成会の班長会議が開かれ今年度と来年度の各育成会の役員の子供たちが参加しました。仕事の引き継ぎやジュニアリーダーの子供たちによるゲームを楽しみました。各育成会の催し物を保護者の役員の方々と考えたり進行したりして、地域での活動をより楽しいものにしようと頑張っている姿を知ることができました。

これらの活動を通して、子供たちが育つ場所や支援するのは、決して学校だけではなく、学校・家庭・地域であることを改めて実感します。学校・家庭・地域は子供たちの成長を共に支えていく仲間であること、また、高階北小には本当に心強い家庭・地域に支えられていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

3月22日は、第51回卒業式です。112名の子供たちが高階北小学校を巣立っていきます。26日は修了式。一人一人が自分で決めたためあてに向かい周りの人と助け助けられながら成長することを願っています。残りわずかとなりましたが、巣立ちゆく卒業生、進級する在校生が期待と希望をもって新年度を迎えられますよう、教職員一同頑張っまいります。

6年生を送る会

2/29 に6年生を送る会が行われました。4年ぶりに全児童が体育館に集まり、各学年の6年生への感謝の出し物を見合うことができました。6年生からも大迫力の合奏の演奏があり、憧れの6年生の素晴らしさを皆で感じることができました。どの学年からも感謝の言葉やリーダーとして活躍した6年生の姿を思い起こす場面があり、この1年間の頑張りを在校生がしっかり見ていたことがわかります。こうして、伝統が引き継がれていくのだと嬉しくなりました。頑張った6年生に拍手を送るとともに、バトンを受け継いだ5年生へ期待します。

たくさんの思いが伝わってきて温かい気持ちになりました。感謝しています。大好きな皆さんと別れるのは悲しいですが、中学校への期待で胸が高鳴っています。在校生の皆さん、よりよい学校をめざしてがんばってください。(6年)

6年生にちゃんとありがとうと大好きですという言葉直せつ言えてうれしかったです。6年生がよろこんでくれてがんばってよかったです。(2年)

大なわをおしえてくれたり、なふだのつけかたをおしえてくれたりしたやさしい6年生でした。ぼくもつぎはカッコいい2年生になりたいです。(1年)



命の授業 「今ここにみんながいる奇跡 みんなすごい」

2/28 に4年生「命の授業」が昨年度に引き続き行われました。講師は愛和病院の助産師さんの方です。担任を交えての出産の劇から始まり、命の誕生のしくみを動画を見ながら丁寧に教えていただきました。第二性徴を迎える4年生の児童にとって、自分の体の変化を前向きに捉えることができました。最後には、お母さんからの手紙の朗読がありました。「生まれてきてくれてありがとう」と大変な思いをして生んだお母さんからの言葉に涙を浮かべる子の姿がありました。

「あなたはとっても大切な人」このメッセージを一人一人が心にしっかり受け止めました。

- ・生まれるのはすごく奇跡だとわかりました。だから、お母さんがぼくを生んだのは奇跡でした。なので、うれしくなり、生まれてきてよかったなあと思いました。
- ・今日の授業で一番大切なのは命だということをもう一回学びました。自分はいろいろな人に支えられて生きているんだなと思いました。命は一度なくしたらもうやり直せない。だから命は一番大切にしないとイケない。
- ・出産を頑張ったお母さん、そして努力して生まれてくる赤ちゃんはすごいと思いました。お母さんはいたがっているのにあきらめないでがんばって生んでくれたこと、お母さんの気持ちが伝わってきました。どれだけ自分が大切にされているかわかりました。私が生まれた時どうだったのか聞きたくなりました。

